


第3回報告

<p>テーマ</p>	<p>ジェンダーの視点から「こどもの人権」</p>	
<p>日時</p>	<p>平成 27 年 10 月 31 日 (土曜日) 午前 2 時から午後 4 時まで</p>	
<p>場所</p>	<p>尼崎市立女性センター・トレピエ</p>	
<p>講師</p>	<p>NPO法人SEAN 事務局長 遠矢 家永子さん</p>	
<p>参加者</p>	<p>20名(内訳 登録者6人、市民他14人)</p>	
<p>事業の目的</p>	<p>子どもたちが抱えるさまざまな問題やカミングアウトの受け止め方、豊かな人権感覚を持つ子どもに育つために必要なことなどを通じて、人権意識を高めることを目的に実施しました。</p>	
<p>実施内容</p>	<p>講師からパワーポイントを使いながらの講演。</p> <p>初めに、子どもの「育ち」の中で、子どもをエンパワメントすることの大切さを説かれ、エンパワメントとは、条件や評価なしで、存在そのものの価値が認められ、自己決定が尊重されることであり、反対にディスパワメントとは、性役割などの価値観を押し付け、存在そのものの価値ではなく、条件や評価付きで愛情を押し付けることであるという説明がありました。また、ジェンダーとは、社会的につくられる性、画一化、多数派の性役割意識、二分化された価値付け・規範、現実とは一致していないイメージ像であり、このジェンダーがもたらす問題として、自尊感情の関わりとして、「らしくない」自分、ありのままの感情を否定すること、他社への差別意識、性的価値の刷り込み、支配(男尊女卑)、勝ち組負け組みの構造化、暴力の連鎖、成長の中で連続すべき「依存」と「自律」を対極化してしまうことになると話されました。最後に、子ども一人ひとりとはとても多様で、ジェンダー規範で子どもを決めつけるような言動は行わない。また、子どもの気持ち・感覚を認め、多様な価値観から自分で選び、結果を引き受ける力を育てることが大切だと結ばれました。</p>	

<p>参加者からの感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ とてもわかりやすく、むやみに感情をこめず、でも力強い心がかんじられて、すぐこっちにひびいてきました。 ・ 今、週に1回ですが、小学生たちに会っているので、なにか自分にもできることがないかと思って参加しました。 ・ ジェンダーについてさらに理解が深まった。 ・ 子どものじんけんについて、より深くりかいてできるよう、とてもいいきっかけをいただきました。 ・ 日頃考えていたことを、遠矢さんがわかりやすくお話くださって、とてもよかったです。
<p>成果</p>	<p>「男らしく」「女らしく」といったジェンダー意識が、子育ての中で、知らず知らずの内に植え付けてしまい、子どもの人権や社会全体を阻害しているということを参加者全員が認識でき、意識関心が高まった。</p>
<p>その他</p>	